

543
七
5

世尊の家卅六人款合形之
敬様

0 150 cm 10 SEKISUI JUSHI 20

Handwritten characters, possibly a signature or name.

Handwritten characters, possibly a signature or name.



Handwritten characters, possibly a signature or name.



にやぬ

かきぬり船をそ

浦北朝霧舟傳

ふりぬり舟の

左 柿本入丸



記

右 紀貫之

じよふかおのり

ふらふら井のあ

ていふつとね

あつね



おのゝき
おのみ

いゝきうらそきる

うせふくのくに

すみまはれねと杖

丸 丸河内躬祖



右 尹勢

右 伊勢

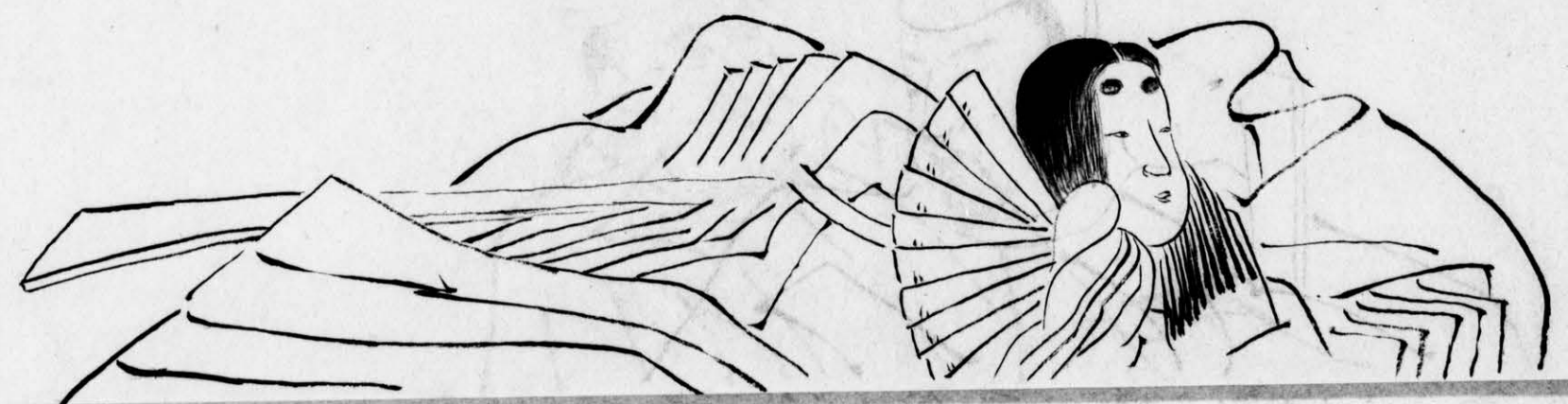
三三のつらふ縁

あはれと

そのあはれも

あはれと

は



秀持

小松。付ふあ

ゆき

ゆき

丸

中納言家持



丸

中納言家持

右

山邊赤人

わの浦小きみらるれ

あはれなる

あはれなる

あはれなる



淡路のついで

おのれおのれ

おのれおのれ

おのれおのれ

おのれおのれ

おのれおのれ

丸

在原業平朝臣



右

曾公遍眼

在厚業平歌

右 僧正遍昭

いふはみちるる山

地のけしきを

うらみし時を

知人そたれ



Shōmon

宗門

東

あふ

志

あつ

あつ

をよ

ひ

丸

素性法師



丸 池友則

大 紀 女 則

右 紀 女 則

甲 子 乙 未

乙 未

丙 申

丙 申

丁 酉

丁 酉

戊 戌

己 亥

己 亥

庚 子

辛 丑

辛 丑



右

小野小町

丸

猿丸大夫

ねく山ふお祭ふと

まげたぐくーまの

ふと

まぐ

あう

ねる

あう

あう



丸 猿丸大夫

右 小野小町

わをぬまはまはな

草の跡をぬえく

いふ

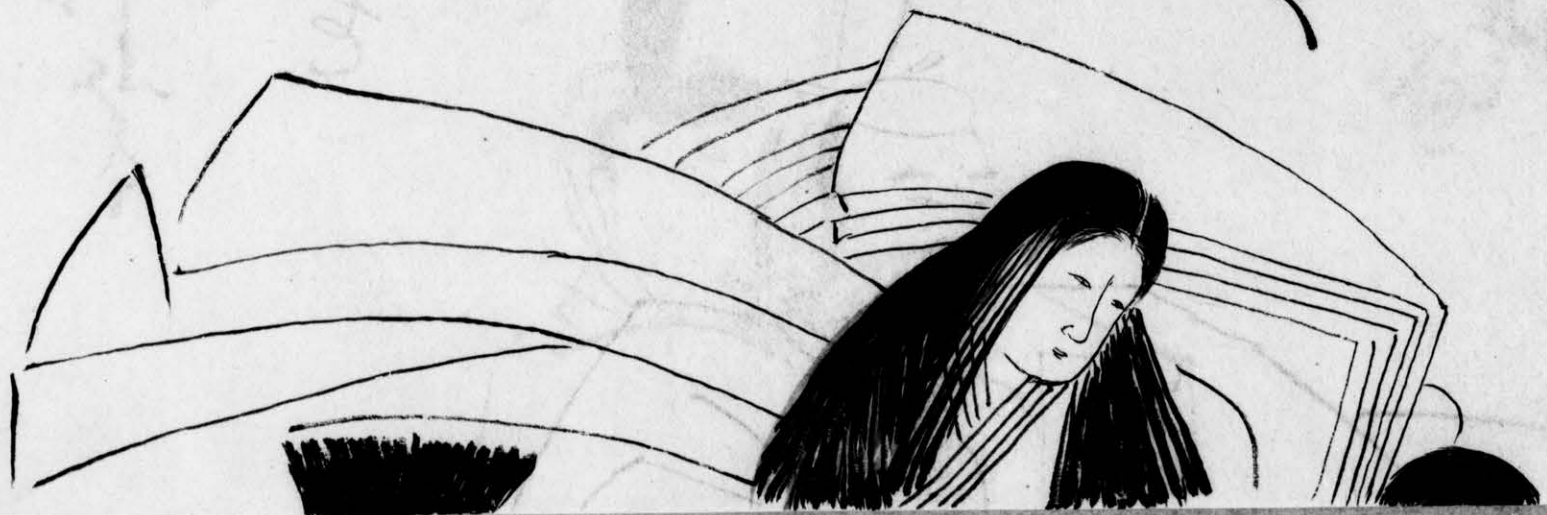
〜

〜

水あ

お

〜



夕

家持松のそ

ふく

にきりゆの

あひらけり

みづあけり

いそぎ

丸

中納言兼輔



丸中納言兼輔

淡
水
神
宮
御
祭
神
御
祭
神
御
祭
神

若
宗
宗
宗
宗
宗

太
中納言朝忠

美代乃
魚

女
子
の
御
祭

い
そ
の
御
祭

い
そ
の
御
祭

す
ま
の
御
祭

神
宮

祭



いさむらふてふ

いさむらふてふ

いさむらふ

いさむらふ

いさむらふ

いさむらふ

いさむらふ

丸

中納言敷



右

藤原高光

丸 中納言敷

右 藤原高光

著す此の心免

髪に髪ふらぬ

けふ

髪のかほの毛

髪にのこる毛





たけ

ふた

あま

あま

あま

あま

あま

あま

たけ

ふた

たけ

ふた

九 公志取信

如 至生志孝

善 孝也

子 付 心

心 付 心

心 付 心

心 付 心



お祓をまわす

あまのつり

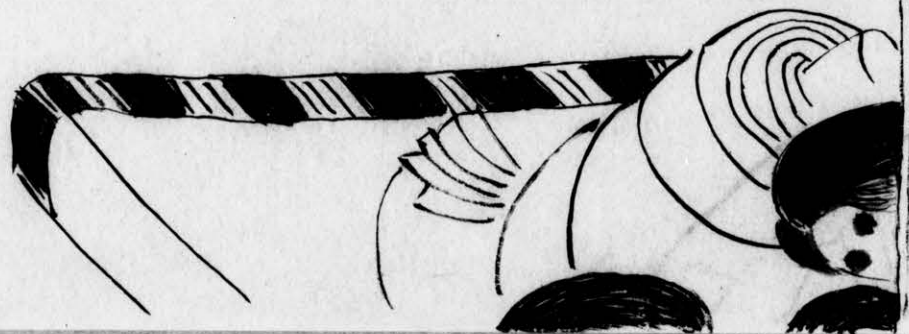
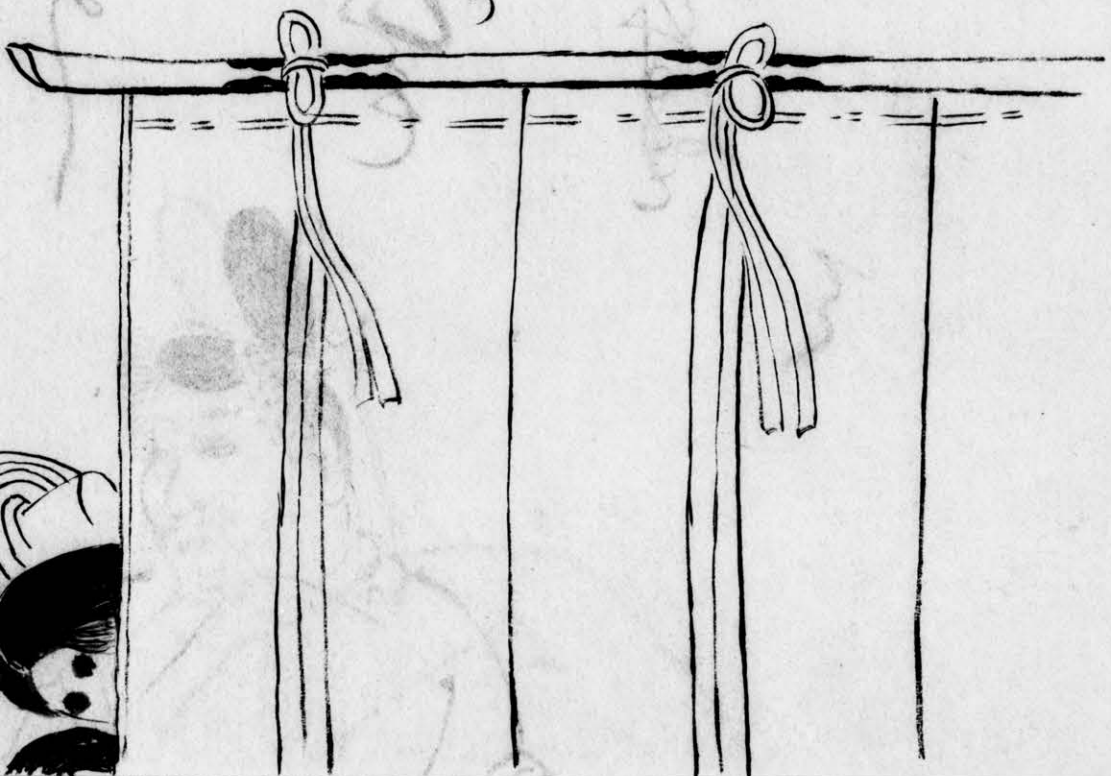
あまのつり

あまのつり

あまのつり

あまのつり

あまのつり



大 大中信頼基綱

丸 海子女流

右 大中正頼基朝下

子目よら好く

こま

小松より

うしろ

ちり

常のちり



吹のそとをさく

三輪の松と

多の妙れ

けさのさう

播磨の地乃花

元 藤原敏行朝臣

右 源重之



九

藤原敏行朝臣

右源重之

夏のまの

玉えの草を

あみしたる

しほあるまじ

その花をたもて



源宗于朝臣

源宗于朝臣

源宗于朝臣

源宗于朝臣

源宗于朝臣

源宗于朝臣



右 源信明朝臣

き 源宗平朝臣

右 源信明朝臣

ほのこころぬり

月のこころ

みちふ

もみら吹おろす山

ねろの風



糸庵さあろく
あ

そののちのち
ふ

あゆ風ふはるの園ふ
あ

丸 藤原清正



右 源順
具

丸 藤原清正

右 源順 具卿

水の西ふらら (Mizunomori)

うきよ

まじりくま

あまの



空舟 (Karakane)

あま

右

清原元輔

尤

藤原具風

誰なるも

松毛ひ

知人ふ

のこまか

せむ

たそ

ふ

了

この



九

藤原具風

右

清原元輔

契理記を

すゑの松

のこ

い

袖を

い

志乃の

と

は

か



志

教原元美

左

坂上是利

浩之

心之

み

あ

ち

也



左
坂上是利

志
教原元美

うねあ

おのぶさし

おのぶさし

おのぶさし

おのぶさし

おのぶさし

おのぶさし



あはれみ

あはれみ

あはれみ

あはれみ

あはれみ

あ

あはれみ



あ

あはれみ

孝 小太郎

右 教条伴文

にものまへ

みまへや

すまの

たの



井の

しのをこころなみ

はひらばあひく

たうひのふらほ

みかきいぬのきーの

丸

大伴良徳道明



右

壬生丸見



丸

大伴位祿直朝丸

右

至生丸見

こひすそふのなほ

まゝ見たらにやま

ひ〜れす〜

ねもひうあ〜か



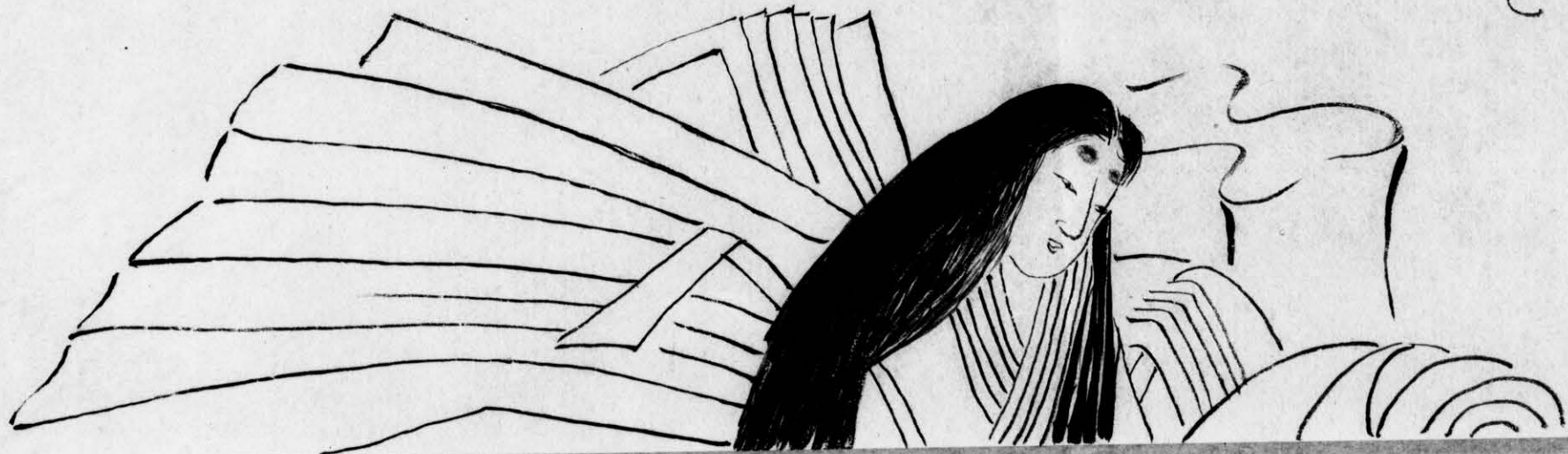
右 中務

梅のさけりていそ

うらやまのさけりていそ

たのみのさけりていそ

さけりていそ



以這散形為真其故有人凡
貫之氣盛中勢共以向合也
以其体書者為真以頭面
之向書者為行各從左以
順書為草已下可點見云尔

藏書統纂凡此皆屬
八包制在現行各法
以其存書在現其
與八包制中亦未
以這般形勢其教育

九州大學圖書印

